

中央大学学員会 第22号 49年白門会会報

発行日 平成23年6月4日
発行人 山崎 厚太
発行所 中央大学学員会49年白門会
印刷所 (有)東光美術印刷

東京都千代田区神田駿河台3-11-5 中央大学駿河台記念館学員会事務局

49年白門会のホームページ → <http://www.gakuinkai.com/hakumon49/>

※メールアドレスの登録・変更は

hakumon@gray.plala.or.jp

にご連絡ください。



(題字・葛西聖司)

今だから

49年白門会会長 山崎 厚太



このたびの地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧と皆様の健康を心からお祈り申し上げます。

経験したことがない巨大地震と圧倒的な津波、さらに塗炭の苦しみの避難生活を余儀なくされている被災者の映像を見て「今何をすれば」と思っている方も多いと思います。すぐにでも現地に行っておかしくボランティア的なことをしたいと居ても立ってもいられない気持ちになられている方が多いのではないのでしょうか。

インターネットに投稿された応援

メッセージをまとめたサイト「心に残るつぶやき」というのがあります。この中から四つの「つぶやき」を引用します。

・千葉の友達から。避難所でおじいさんが「これからどうなるんだろ」と漏らした時、横に居た高校生ぐらいの男の子が「大丈夫、大人になったら僕らが絶対元に戻します」って背中さすって言ったらしい。大丈夫、未来あるよ。

・昨日の夜中、大学から徒歩で帰宅する道すがら、とっくに閉店したパン屋のおばちゃんが無料でパンを配給していた。こんな喧嘩のなかでも自分にできること見つけて実践している人に感動。心温まった。東京も捨てたもんじゃない。

・韓国人の友達からさっききた

CONTENTS

- 1ページ
★今だから 山崎厚太
- 2ページ
★友へのメッセージ 加納幹郎
★楽苦我喜 村岡 潤
- 3ページ
★忘年会レポート
★新年会レポート
★49年会に感謝状！
★事業部掲示板
- 4ページ
★総会のお知らせ
★10年度会費納入者
★11年度会費納入のお願い
★原稿募集
★編集後記

メール。(日本語訳後)「世界唯一の核被曝国。大戦にも負けた。毎年台風がくる。地震だつてくる。津波もくる……小さい島国だけど、それでも立ち上がってきたのが日本なんじゃないの。頑張れ頑張れ。ちなみに僕いま泣いてる。

・2歳の息子が独りでシューズを履いて外に出ようとしていた。「地震を速捕しに行く！」とのこと。小さな体に宿る勇気と正義感に力をもろう。みなさん、気持ち強く持つて頑張りましょう。

非常事態に当たって多くの人がとった行動は年齢に関係なく純粋に何かしようということでした。我々は一人でないことを感じるメッセージです。応援メッセージは世界中から届いています。被災された方々のことは日本だけでなく世界中が見守っています。

強い絆を築こう！

今回の地震では自然災害には想定外はないということ学びました。指定された避難場所被災した

方々も居ます。被災地以外の皆さんも今一度自分の避難場所は本当に安全か見直してみよう。交通機関が総てためになった時を想定し、自宅までの歩行路がわかる携帯マップは準備しましょう。遠距離を歩くことを考えエコーレイトなども持ち歩きましょう。携帯電話は電池切れがあるので、補助用の電池があると便利です。今回携帯電話はつながりませんでした。メールは使えるようにしておくことが災害の時には非常に有用です。

災害に会った時、お互いの支えが必要だと思います。しかしながら、地域の人と付き合うといっても、年も違う共通の話題もないという中で多くは仲間を作るのは難しいと思います。今後定年で会社との繋がりが無くなると、ますます人付き合いは少なくなります。このような時、同期であれば初対面でも通じやすいものがあると思います。お互い共通のものがあります。「今だから」さらに一層同期の絆を強めることを考えてみようではありませんか。

友へのメッセージ

定年退職して一年、

今思うことと

加納幹郎 (経) 愛知県春日井市

大震災の報道をテレビや新聞で毎日見ているうちに、少々鬱になりかけていますが、皆さんは如何お過ごしでしょうか。私も、会社勤めを卒業して早や1年が過ぎました。何か毎日2回(?)の食事の出来る暮らしをしてあります。有難いことです。早く毎日3回の食事が出来るように頑張っていきたいと肝に銘じて活動しております。

勤(?)と市役所等への手続き、それと独立後に顧客となるであろう客先への挨拶廻りに活動開始。ハローワークへの出勤は、雰囲気有余にも暗く、また、所員の態度が悪いため3ヶ月で取止め、起業を開始しました。

料を頂ける生活のありがたみを感じた次第です。起業してすぐに大きなパンチを食らい、事業計画の修正を迫られる事態が起こりました。2~3年分の利益を見込んでいた客先が、5月中旬に突然倒産! これからどうしようかと天いに悩みました。やはり個人企業は辛いです。

会社を辞めて、また、独立起業して改めてよくわかったことがあります。それは家族からの思いやりと応援、そして、勤務先の看板の力です。先ずは、家族の思いやりと応援ですが、定年退職の日に、サラリーマンの次男が会社に車で迎えに来てくれて「苦勞様、今日は人生で一度しかない日だから、迎えに来た」と言われ、胸を熱くしました。また、長男からは、感謝の気持ちを一杯詰めた手紙を受け取り、ここでも胸が熱くなり、ついポロリと……。妻からも「苦勞様でした」と。36年間の日々が報われたことを実感できた一日でした。

本格稼働してわかったことは、これまでお付き合いしていた顧客が、会社を信頼しての取引か、加納個人を信頼して取引して頂いていたか、ということだと思います。まさに個人への評価が歴然としたときです。自分としては、このことをよく理解していたつもりでしたが、少々寂しい思いをする場面が何度かありました(現在は、営業間口を従前より絞り込み、継続的な収益の確保とリピートオーダーの見込める顧客をフォローしております)。

9月になりやっと退職記念ツアーとしてタヒチ島、ボラボラ島に行ってきました。ここは最高のリゾート地です。皆さん是非行ってみたいと思います。皆さん是非行ってみたいと思います。文章に表せないほど良いことです(単なる表現力不足か)。

退職後、良いことも、悪いこともいろいろありましたが、これからの人生、妻の協力を得ながら大いに楽しんで行こうと思っております。皆さんも、奥さんと家族を大切に人生を大いに楽しんでください。

やっぱりサラリーマンは、
気楽でイーナー!

追記 この文章は、妻の検閲を受けてあります



社長(奥様)との経営会議の一幕(?)

退職後は、ハローワークへの出

サラリーマン時代には感じませんでした。日々の稼働が生活に直結するところも身体で感じるようになりました。退職後の4月24日に妻から何気なく言われた「明日はお給料日ねーっ!」の一言に、「お前はアホカー」とつい言ってしまい、毎月給

追記 この文章は、妻の検閲を受けてあります

楽苦我喜

村岡 潤 (経) 埼玉県春日部市

倒れて知った健康のありがたみ

今年2月60歳になった。還暦を迎えたのだ。人生三分の二は過ぎたと言える。山あり谷ありと言っけれど、振り返ってみるとどこかで落とし穴がある一方、思いがけないことにより、ラッキーなことをもたらしてくれることも多々あった。

失敗と言えば自分の体(健康)を過信し、一昨年脳梗塞を患ったことである。医師からは煙草と食生活が大きな原因と言われた。煙草が医学的に身体に悪影響を及ぼすことは、充分承知していたが、我がDNA上脳梗塞、脳溢血、肺がん等は、ありえないと信じ切っていたのである。

我が一族(親戚を含め)は愛煙家が多いが、喫煙が原因で病気になるたり、亡くなった人は、ほとんどいないからである。が、私はこれを機会に40年に及んだ喫煙をスッパリと辞めた。医師からは、今回倒れずにこのまま喫煙を続けていたならば、近い将来に倒れ、その時点で生命は危ぶまれていたと言われた。命が10年持たなかったかもしれないのだ。

また食生活も大幅に改善した。血糖値が上がるもの、コレステロールの高いものを務めて少量とし、根菜を多く取り入れ、野菜、魚(青もの)を中心とした食事に変えた。アルコールも控えるに、たしなむ程度にした。代わりに今までほとんどしなかった運動をすることにしている。週一度は、スポーツジムに通い適度の汗を流している。お蔭で体型も些かA体に近くなった気がする。体調も良好であり、寿命もあと15年、20年は大丈夫と思える。深夜に及ぶ付き合い麻雀、接待飲酒等20代、30代の不摂生な生活に比べれば雲泥の差である。

中国の古事に「人生万事塞翁が馬」があるが、これからの残りの人生がどんな展開になるのか不安でもあり、興味もある。いずれにせよ摂生し、適度な運動をすることが肝要である。

70年會

2010年
12月4日(土)

師走とは思えない穏やかな表参道の午後、青山通りの「青山オーバルビル」地下1階に、忘年会会場の「ろくまる五元豚青山店」がありました。実はこの店、カメラマンの高橋和幸さんの二男が店長をやっているお店。

開始時刻の1時には予定の一人を除いて15名が集まり乾杯。遅れた方も15分後にはやってきて2回目の乾杯。山崎会長の挨拶で忘年会は始まりました。高橋さんのおかげでメニューに有る全てのお酒が飲み放題。ビール、ワイン、ウイスキー、焼酎、日本酒と追加追加でアルバイトの学生さんは大忙し。いつの間にか店内にはお客はいなくなり我ら16名だけ。ランチタイムは2時半までなのに4時近くまで大宴会。

飲み過ぎで料理は入らないと言いつつ、野菜と一緒に食べる豚しゃぶが美味しかった。最後のデザートまできれいに食べてあの値段とは！店長相当無理したみたい。高橋さん感謝です。

予定時間を1時間もオーバーしてお開きになった。最後の締めは高橋カメラマンによる記念写真で決まり。新年会での再会を約し一本締め。

外に出ればまたま明るい。「ちょっと一杯行こう」という高橋さんの提案で、6人が表参道の方へ行く。また4時なのでお店が開いてない。脇道にそれてもうこの先には店はないだろうと思ったところに一軒、らしきお店を発見。満席だったのでお店の前のテーブルでチーズとワッフルでワインを一本

空ける。パリのカフェテラスみたいな雰囲気だったが、アラカンの男6人がワインを飲んでいる図は異常。通りにも5時前からイルミネーションが灯りますます雰囲気はシャンゼリゼー！

5時過ぎに表参道に出ると、そこは光の海！うわさに聞く表参道のイルミネーションが、両側の街路樹を鮮やかに無数の光で飾っていた。道路も歩道も車と人で満杯。携帯で写真を撮る人にもぶつかりながら、原宿駅までアラカン6人衆が千鳥足で歩く。こうして2010年も暮れていった。(広報部)

新年会

2011年
1月29日(土)

寒さが一段と厳しい1月末の土曜日。晴れてはいるが風が冷たい銀座の午後でした。恒例の49年白門会の新年会が、いつもの銀座「Sunmi高松」で開かれました。昨年末では開始が午後3時からでしたが、今回からは1時のスタートでした。大雪の新潟や名古屋からの常連の会員と共に、今回初参加の2名も加わり、34名が集合。

山崎会長の挨拶に続き、中島幹事長から初参加の馬場安徳さんと平田恵美子さんの紹介があり、今回参加した全員の名前が紹介されました。

大竹広報部長の乾杯の音頭で懇談がスタート。会費を千円アップしたことや料理が充実したためか、1時という時刻が昼食時と重なったためか、テーブルに出された料理は瞬く間になくなってしまった。現役で入

学した人も来年の3月までには還暦を迎えるアラカン世代。話題は病気のものしょうがないかもしれないなかった。

お腹もいっぱいになった頃、恒例のオークションがスタート。会員から38品の品物が持ち込まれました。名オークションナーの宮川保さんによって次々と落札されていきました。オリジナルレカ、手作りの徳利、コシヒカリ、CDセット、自家製梅酒などが千円から5千円で落札。ここ数年の目玉出品の卓球グッズは、ロンドンオリンピックでメダルが確実視されている石川佳純選手

のサイン入りラケットと色紙。ポスト愛ちゃんで注目されている石川選手。ファンにとっては垂涎ものだが、アラカン世代にはまだ未知数なのか競り上がらない。宮川オークションナーの必死の掛け声にも反応は低く予想外の低額で落札。最後に中大の特製法被が10名にプレゼントされた。オークションの売上金7万1千円は全額49年白門会の名前で125周年記念事業に寄付されました。

2時間以上の歓談の後、恒例の校歌、応援歌を小澤事業部長のリードで斉唱。最後は小澤氏の衰えることのない声でエールの交換。集合写真はプロカメラマンの高橋さんが激写。締めは山崎司平副会長の3本締め。初めの挨拶、乾杯の挨拶、締めの挨拶とも健康について触れていたのはアラカン世代の集まりの特徴か

もしれなかった。

4時にはお開きになり出席者の半数以上が2次会の「ライオン」に向かいました。(広報部)



49年白門会が感謝状を授与！

5月13日に中央大学駿河台記念館で開催された「中央大学創立125周年記念 式典報告と感謝のつどい」において、我が49年白門会は大学から感謝状を授与されました。

これは125周年記念募金に対して、趣旨に賛同し募金の推進と取りまとめに尽力し、大学の教育研究環境の一層の向上のため多大な貢献を

事業部揭示板

2011年度の行事予定です。時間や集合場所等詳細は未定です。

実施が決まりましたらホームページやメールでお知らせいたします。

◎総会・懇親会

7月2日(土)

同封された案内状をお読みください。

◎カラオケ&ビアパーティー

8月6日(土)

◎ホームカミングデー

10月23日(日)

「49年白門会」の職の下に集合！

◎東京タワー見学

11月12日(土)

◎忘年会

12月3日(土)

◎新年会

平成24年1月28日(土)

例年通り「銀座Sunmi高松」を予定

◎サントリー武蔵野ビル工場見学

平成24年3月10日(土)

* * *

*2010年度に予定しておりましたが、3月の「喜飾柴又散策」と5月の「深川散策」は東日本大震災により中止いたしました。

したという理由です。会員皆様のご協力に感謝いたします。

当日は宮川副会長が49年白門会を代表して贈呈式に臨みました。

2011年度 総会のお知らせ

「49年白門会」の2011年度の総会が開かれます。還暦を迎えた皆様の新しいサロンともいえるべき「49年白門会」です。是非ご出席お願いいたします。今回から開始時間を12時半にしました。総会終了後の懇親会はランチタイムです。

日時・平成23年7月2日(土)
午後12時半(12時より受付)

場所・中央大学駿河台記念館
レストラン・プリオール

(東京都千代田区神田駿河台3-11-5)
懇親会・午後1時〜3時 プリオール
会費は5千円です。

2011年度会費 納入のお願い!

「49年白門会」は、皆様の会費によって運営されています。10年度の

編集 後記

復興を 祈りつつ...

今回の東日本大震災に関しては、49年白門会の皆さんも他人事とは思えない日々を送られたことでしょう。同期にも被災された方がおり、改めてお見舞い申し上げます。
小生も岩手県出身のため、震災後度々故郷へ足を運んだ。避難民やカレシとなった家屋を見るにつけ、胸を痛む思いがした。それでも被災地では震災にめげず、「無からの正直

しだ」「生きるためにできることやらやるんだ」と口々に復興に向けて一つ一つ行動を起していることに逆に勇気をもたらした。震災から二ヶ月を経過し、東北新幹線や基幹道路が全線開通、電気・ガス・水道等インフラも一部を除き復旧した。「風呂に入れるのがうれしいんだよ」被災者が笑顔で話すその会話は、被災以来、寝食を忘れて子供や高齢者の

ため頑張ってきた日々の勇姿が映る。未曾有の災害を目の当たりにして、今、自粛ムードが広がっている。その気持ちは大切なことだが、このまま自粛不況を助長させてもならない。五月の連休中、いくらでも被災地の経済が回れば(???)と思い、家族で現地のお店を利用した。お店の主人も来店に感謝し、地産地消に一層の精進を誓っていた。(千葉 幸嗣)

会費納入者のお名前を下記に発表しました(3月31日現在)。11年度の会費もよろしくお願いいたします。同封の郵便振替用紙か、銀行振込等での納入をお願いしますが、7月の総会会場でも受け付けます。

会費納入は7月末までをお願いいたします。その後の未納の方には随時お願いのお手紙を差し上げる予定です。これからも元氣な「49年白門会」の運営に、是非ご協力お願いいたします。(会計部)

会費の納入についてのお願い

49年白門会は会費によって運営されています。未納入の方は、是非、会費を納めてくださるようお願いいたします。

年会費3,000円、入会金1,000円です。

なお納入方法は、下のいずれかをお選びください。

- ①郵便振替 (手数料は不要です)
振替口座番号「00180-3-196081」
口座名称 「49年白門会」
- ②銀行振込 (振込手数料が必要です)
銀行名 三菱東京UFJ銀行日野市役所支店 普通預金「0569115」
口座名 49年白門会 代表 山崎厚太

49年白門会連絡先・事務局

※住所・勤務先変更、新規会員紹介、お問い合わせ等、何でもご連絡ください。

※年2回発行するこの会報へ、広告の出稿、詩、俳句、エッセー等の原稿、企画案、ご意見をお寄せください。

49年白門会幹事長 中島章夫
東京都千代田区神田駿河台3-11-5 中央大学学員会事務局
電話 03-3219-6175 FAX 03-3219-6177

※メールアドレスの登録・変更は
hakumon@gray.plala.or.jp にご連絡ください。

10年度会費納入者

(11年3月末現在)

●法学部

- 荒木康裕 石川健次 市村禎二郎
- 大竹力三 大谷洋一 岡田彰 荻原紀行 小幡和男 葛西聖司 菅納敏恭 木村真 黒石正樹 黒川憲治 黒澤義巳 塩賀光明 穴倉壽夫 篠原民雄 杉本功 杉本和久 関雄四郎 高木潔 高橋和幸 武井巖 只縄治幸 田中正道 田村哲朗 東條勝博 戸田祐一郎 友国博志 永井敏夫 藤本真也 堀越義久 増澤繁益 田耕二 丸山秀平 三橋克美 菱輪恵子 谷治博史 山崎司平 山根信正 横川博 横溝高至

●経済学部

- 井美知子 石川晶雄 井上修 岩瀬正典 梅田真人 小澤秀敏 加納幹郎 後藤徳彌 坂本和夫 佐藤隆 佐野伸治 穴戸平和 菅原守 高柴富十男 田中明 中島章夫 原伸正 平野敏雄 松平守 宮川保 本橋勝

●商学部

- 美 山崎厚太 山本順一
- 秋山一正 有吉通泰 板倉英行 小澤龍次 小山隆房 木戸口幸生 黒川豊 黒木兼一郎 佐久間信夫 利根川宣保 長瀬浩司 野口孝史 菱倉義成 松井宏夫 山田淳一郎 和田芳幸

●文学部

- 池田和宣 石川徹 榎本宏太郎 神田曜子 軍司和彦 佐川和弘 佐々木幸生 三瓶富子 多田博則 長瀬教子 新沼辰男 浜手基親 古岡文子 古山みや子 渡邊秀和

●理工学部

- 天野茂 井上三史 岩城和裕 石見望 肥沼敏子 柴田明 高木一成 永木道雄 堀井信行

原稿募集

次号掲載の「会員からのエッセー」では「還暦になって思うこと」というテーマで原稿を募集します。ほとんどの皆さまが還暦前後、定年前後です。この年になると、今までの事や今後の事をあれこれ思うことが色々出てきます。その思いを400字前後で事務局までにお送りください。締め切りは10月末日です。
広報部から手紙やメールで依頼することもありますが、ご協力お願いいたします。